



取扱説明書

DuraVision® FDS1783T

タッチパネル装着カラー液晶モニター

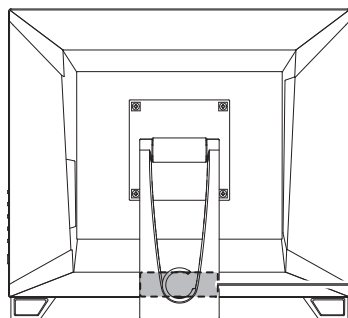
重要

ご使用前には必ずこの取扱説明書および使用上の注意をよくお読みになり、正しくお使いください。

- モニターの設置 / 接続については、セットアップガイドを参照してください。
- 取扱説明書を含む最新の製品情報は、当社のWebサイトから確認できます。

www.eizo.co.jp

警告表示位置



Laite on liitettävä suojakoskettimilla varustettuun pistorasiaan.
Apparatet må tilkoples jordet stikkontakt.
Apparaten skall anslutas till jordat uttag.
Apparatets stikprop skal tilsluttes en stikkontakt med jord som giver forbindelse til stikproppens jord.
電源コードのアースは必ず接地してください。

製品の仕様は販売地域により異なります。お買い求めの地域に合った言語の取扱説明書をご確認ください。

1. 本書の著作権はEIZO株式会社に帰属します。本書の一部あるいは全部をEIZO株式会社からの事前の許諾を得ることなく転載することは固くお断りします。
2. 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
3. 本書の内容については、万全を期して作成しましたが、万一誤り、記載もれなどお気づきの点がありましたら、ご連絡ください。
4. この製品の使用を理由とする損害、逸失利益などの請求につきましては、上記にかかわらず、いかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。

この製品について

使用について

- この製品は、文書作成やマルチメディアコンテンツの閲覧など一般的な用途に適しています。
- 診断用に使用することは意図していません。
- 製品の仕様は販売地域により異なります。販売地域外での使用に関して、当社は一切責任を負いかねます。

This product has been adjusted specifically for use in the region to which it was originally shipped. If the product is used outside the region, it may not operate as specified in the specifications.

- 本書に記載されている用途以外での使用は、保証外となる場合があります。
- 本書に定められている仕様は、付属の電源コードおよび当社が指定する信号ケーブル使用時にのみ適用いたします。
- この製品には、当社別売オプション品または当社が指定する製品をお使いください。

液晶パネルについて

- モニターの表示が安定するまでに、約30分（当社測定条件による）かかります。モニターの調整は電源を入れて30分以上経過するまでお待ちください。
- 長時間使用することによる画面品位の劣化を抑え、長くご使用いただくには、輝度を下げて使用することをお勧めします。
- 同じ画像を長時間表示することによって、表示を変えたときに前の画像が残像として残ることがあります。長時間同じ画像を表示するようなときには、コンピュータのスクリーンセーバーまたはパワーセーブ機能を使用してください。表示する画像によっては、短い時間でも残像が残ることがあります。その場合、画像を変更したり、数時間電源を切った状態にすると、解消されることがあります。
- 表示状態を長時間続けると、表示面にシミやムラ、焼き付きが発生する場合がありますのでご注意ください。モニターを長くお使いいただくため、定期的にモニターの電源をオフにすることをお勧めします。
- 液晶パネルは、非常に精密度の高い技術で作られていますが、画素欠けや常時点灯する画素が見える場合がありますので、あらかじめご了承ください。なお、有効ドット数の割合は99.9994 %以上です。
- 液晶パネルに使用されるバックライトには寿命があります。長時間連続使用など、ご使用状態によっては、バックライトの寿命が早まり、交換が必要となる場合があります。画面が暗くなったり、ちらついたり、点灯しなくなったときには、お客様ご相談窓口にお問い合わせください。
- 液晶パネルを固い物や先のとがった物などで押したり、こすったりしないようにしてください。傷が付く恐れがあります。なお、ティッシュペーパーなどで強くこすっても傷が入りますのでご注意ください。

- ・（タッチパネル使用時の注意事項）

次の点に注意してください。故障の原因となります。

- タッチパネルを強く押したり、こすったり、突いたりしないでください。
- ボールペンや金属類などの硬い物でタッチパネルをタッチしないでください。

設置について

- ・ ラッカー系の塗料を使用した机にこの製品を置くと、スタンドの底面に使用しているゴムの成分により、色が付着する場合があります。ご使用前にご確認ください。
- ・ この製品を冷え切った状態のまま室内に持ち込んだり、急に室温を上げたり、温度が低い部屋から高い部屋に移動したりすると、製品の表面や内部に結露が生じることがあります。結露が生じた場合は、結露がなくなるまで製品の電源を入れずにお待ちください。そのまま使用すると故障の原因となることがあります。

クリーニング

- ・ この製品を美しく保ち、長くお使いいただくためにも定期的にクリーニングをおこなうことをお勧めします。
- ・ 製品に付いた汚れは、少量の水や、水で薄めた中性洗剤をしめらせた柔らかい布を使って、やさしく拭き取ってください。

注意点

- ・ シンナー、ベンジン、ワックス、研磨クリーナーは、製品をいためるため絶対に使用しないでください。
- ・ 消毒のためにアルコールなどの薬品を使用すると、ひび割れ、光沢の変化、変色、色あせ、表示画質の劣化などにつながる恐れがあります。ご使用の際は次の点に注意してください。
 - 製品に薬品を直接吹き付けしないでください。
 - 薬液含浸済のウェットワイパー類は液量が多いことがありますので使用をお控えください。
 - 製品の隙間や内部に薬品が入らないようにしてください。
- ・ クリーニングおよび消毒の詳細は、当社Webサイトをご確認ください。
確認方法：www.eizo.co.jpにアクセスし、サイト内検索ボックスに「消毒」と入力して検索

モニターを快適にご使用いただくために

- ・ 画面が暗すぎたり、明るすぎたりすると目に悪影響をおよぼすことがあります。状況に応じてモニター画面の明るさを調整してください。
- ・ 長時間モニター画面を見続けると目が疲れますので、1時間に約10分の休憩を取ってください。
- ・ 画面は、適切な距離および角度でご覧ください。

目次

警告表示位置	2
この製品について	3
使用について	3
液晶パネルについて	3
設置について	4
クリーニング	4
モニターを快適にご使用いただくために	4
1 はじめに	7
1.1 特長	7
1.1.1 フルフラットデザイン	7
1.1.2 タッチしやすいスタンド機構（レイドバックスタンド仕様）	7
1.1.3 10点マルチタッチ対応	7
1.2 各部の名称と機能	8
1.2.1 レイドバックスタンド仕様	8
1.2.2 チルトスタンド仕様	10
1.3 タッチペンホルダー取付方法	12
2 基本の調整 / 設定	13
2.1 タッチパネルの有効 / 無効を設定する	13
2.2 タッチ感度を調整する	14
2.3 入力信号を切り替える	14
2.4 明るさを調整する	15
2.5 音量を調整する	15
3 タッチパネルの設定	16
3.1 タッチパネルの設定方法	16
3.2 タッチパネルの操作設定をおこなう	17
4 詳細な調整 / 設定	18
4.1 設定メニューの基本操作方法	18
4.2 設定メニューの各機能	19
4.2.1 カラー調整	19
4.2.2 信号設定	23
4.2.3 本体設定	27
4.2.4 言語選択	28
4.2.5 インフォメーション	28
5 管理者向け設定	29
5.1 「Administrator Settings」メニューの基本操作方法	29
5.2 「Administrator Settings」メニューの各機能	30
6 こんなときは	32
6.1 画面が表示されない場合	32

6.2	画面に関する症状（デジタル、アナログ共通）	33
6.3	画面に関する症状（アナログのみ）	34
6.4	タッチパネルに関する症状	35
6.5	その他の症状	37
7	ご参考に	39
7.1	アーム取り付け方法	39
7.2	複数のコンピュータを接続する	41
7.3	USBハブ機能の使用方法	43
7.4	仕様	45
7.4.1	液晶パネル	45
7.4.2	タッチパネル	45
7.4.3	映像信号	46
7.4.4	USB	46
7.4.5	音声	46
7.4.6	電源	47
7.4.7	機構	47
7.4.8	動作環境条件	47
7.4.9	輸送 / 保存環境条件	47
7.5	対応解像度	48
	付録	49
	商標	49
	ライセンス	50
	医療規格	50
	EMC情報	51
	意図した使用環境	51
	技術的説明	52
	製品に使われている記号について	57
	アフターサービス	58
	製品に関するお問い合わせ	58
	点検 / 修理に関するお問い合わせ	58
	製品回収、リサイクルシステムについて	58

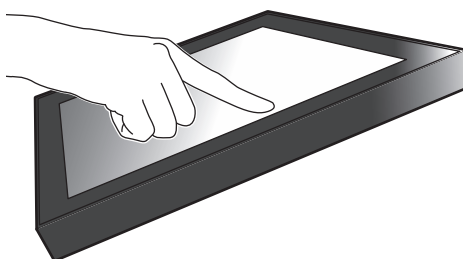
1 はじめに

このたびは当社カラー液晶モニターをお買い求めいただき、誠にありがとうございます。

1.1 特長

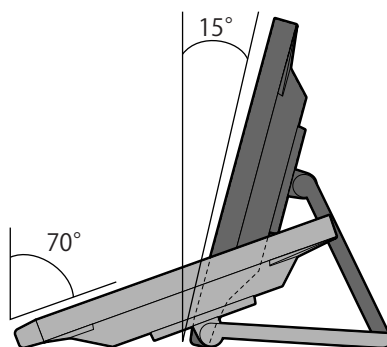
1.1.1 フルフラットデザイン

ベゼル部に段差のないフルフラットデザインを採用。指先でも画面の隅までしっかりとタッチできます。



1.1.2 タッチしやすいスタンド機構（レイドバックスタンド仕様）

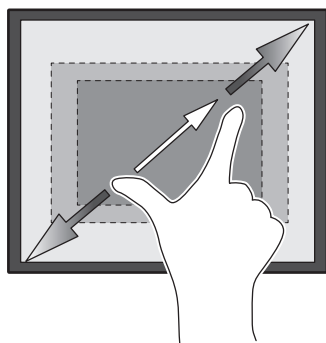
チルト角を無段階に調整可能。オフィスワークやマルチタッチ操作など、使い方にあった作業しやすい画面位置にスムーズに変更できます。



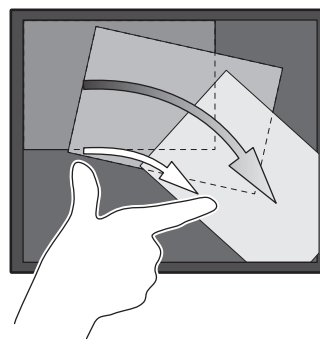
1.1.3 10点マルチタッチ対応

マルチタッチによる拡大/縮小、回転などの操作がおこなえます。画面に軽く触れるだけで反応するため、フリックやドラッグ操作も快適です。

拡大/縮小



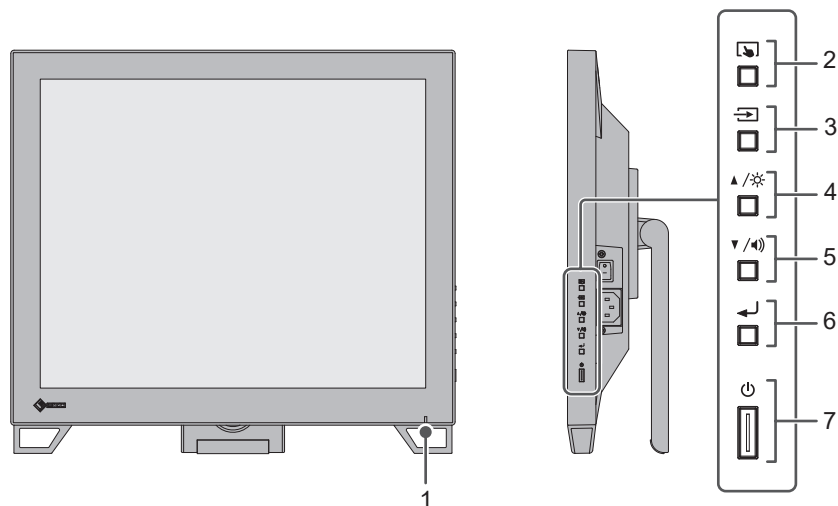
回転





1.2 各部の名称と機能

1.2.1 レイドバックスタンド仕様

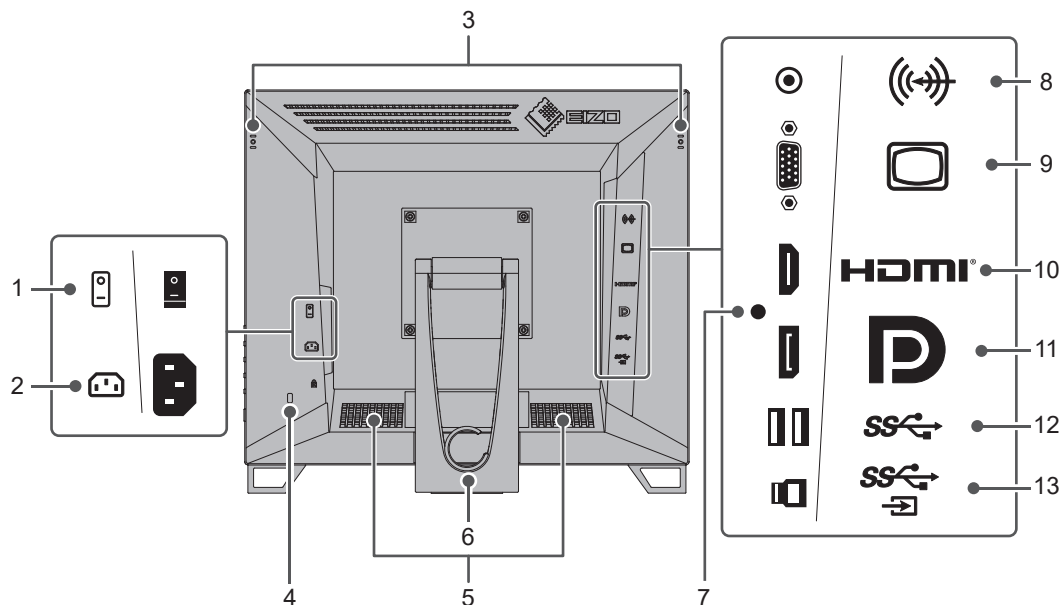
前面



1. 電源ランプ	モニターの動作状態を表します。 青：画面表示 橙：省電力モード 消灯：主電源オフ / 電源オフ
2.  ボタン	タッチパネルの有効 / 無効を切り替えたり、タッチ感度を調整します。
3.  ボタン	表示する入力信号を切り替えます。
4. ▲/★ ボタン ^{※1}	設定メニュー表示中に項目の選択や機能の調整または設定をしたり、明るさ（ブライトネス）調整画面を表示します。
5. ▼/🔊 ボタン ^{※1}	設定メニュー表示中に項目の選択や機能の調整または設定をしたり、音量調整画面を表示します。
6. ←J ボタン	設定メニューを表示し、各メニューの調整項目を決定したり、調整結果を保存します。
7. ⏻ ボタン	電源のオン / オフを切り替えます。

※1 この取扱説明書では、これ以降▲/★のボタンを▲、▼/🔊のボタンを▼と表記する場合があります。

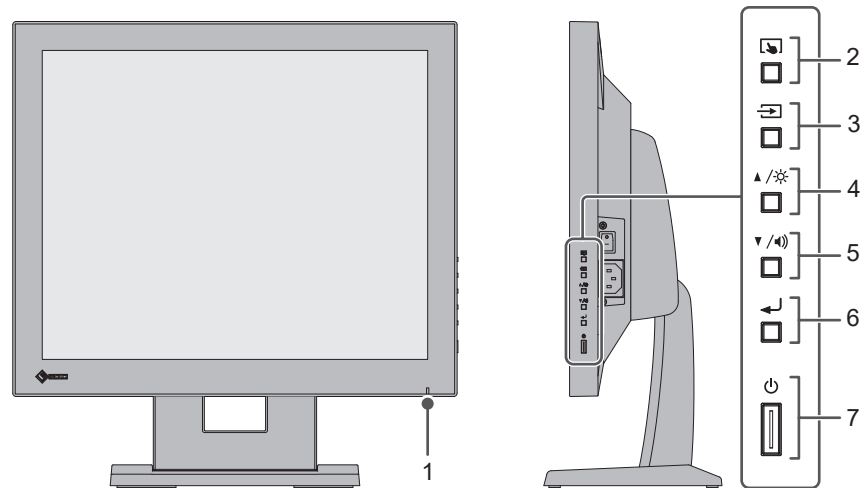
背面



1. 主電源スイッチ	主電源のオン/オフを切り替えます。 : オン、○ : オフ
2. 電源コネクタ	電源コードを接続します。
3. タッチペンホルダー取り付け穴	タッチペンホルダーを取り付けます (1.3 タッチペンホルダー取付方法 [P. 12] 参照)。
4. 盗難防止用ロック	Kensington社製のMicroSaverセキュリティシステムに対応しています。
5. スピーカー	音声を出力します。
6. スタンド (ケーブルホルダー付)	角度が調整できます。
7. 結束バンド取り付け穴	HDMIケーブルの抜け防止のための結束バンドを取り付けます。
8. ステレオミニジャック	ステレオミニジャックケーブルを使って外部機器に接続すると、外部音声をモニターから出力できます。
9. D-Sub15ピン (ミニ) コネクタ	D-Sub出力のあるコンピュータを接続します。
10. HDMIコネクタ	HDMI信号出力のあるコンピュータを接続します。
11. DisplayPort™コネクタ	DisplayPort信号出力のあるコンピュータを接続します。
12. USB-Aコネクタ (ダウンストリーム)	USBに対応している周辺機器と接続できます。
13. USB-Bコネクタ (アップストリーム)	タッチパネルモニターとして使用する場合、またはUSBハブ機能を使用する場合にUSBケーブルを接続します。

1.2.2 チルトスタンド仕様

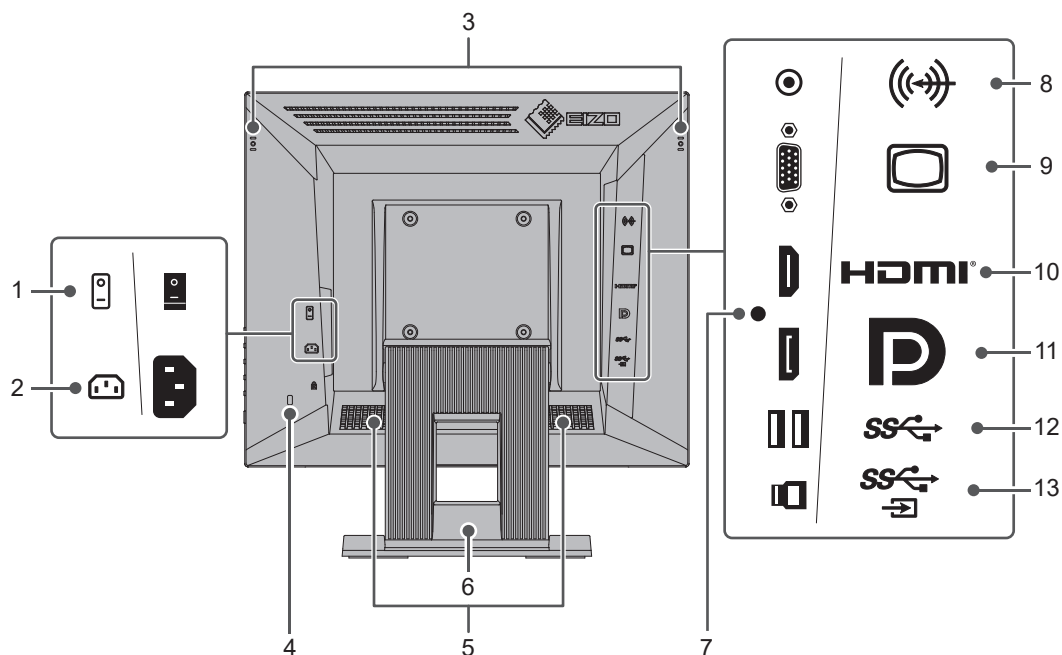
前面



1. 電源ランプ	モニターの動作状態を表します。 青：画面表示 橙：省電力モード 消灯：主電源オフ / 電源オフ
2. ボタン	タッチパネルの有効 / 無効を切り替えたり、タッチ感度を調整します。
3. ボタン	表示する入力信号を切り替えます。
4. ▲/☀️ ボタン ^{※1}	設定メニュー表示中に項目の選択や機能の調整または設定をしたり、明るさ（ブライトネス）調整画面を表示します。
5. ▼/🔊 ボタン ^{※1}	設定メニュー表示中に項目の選択や機能の調整または設定をしたり、音量調整画面を表示します。
6. ← ボタン	設定メニューを表示し、各メニューの調整項目を決定したり、調整結果を保存します。
7. ⏻ ボタン	電源のオン / オフを切り替えます。

※1 この取扱説明書では、これ以降▲/☀️のボタンを▲、▼/🔊のボタンを▼と表記する場合があります。

背面



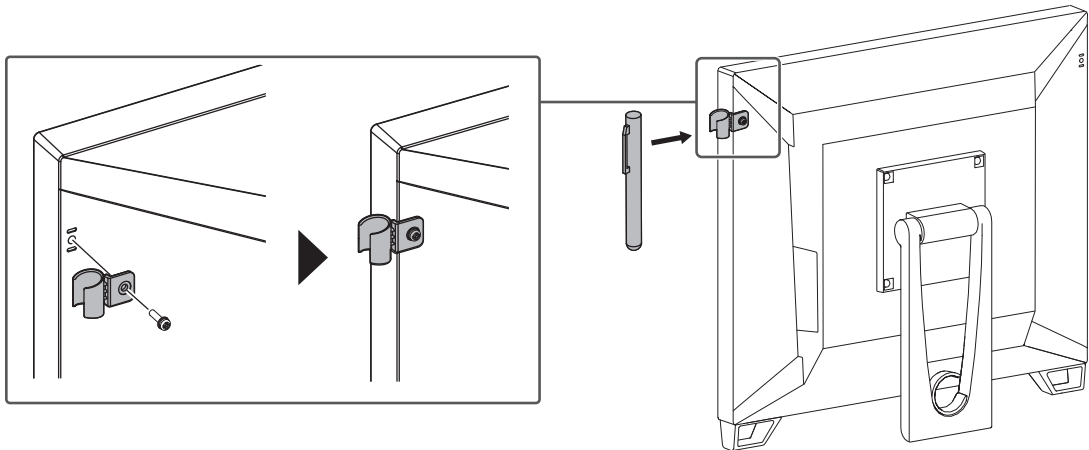
1. 主電源スイッチ	主電源のオン/オフを切り替えます。 : オン、○ : オフ
2. 電源コネクタ	電源コードを接続します。
3. タッチペンホルダー取り付け穴	タッチペンホルダーを取り付けます (1.3 タッチペンホルダー取付方法 [P. 12]参照)。
4. 盗難防止用ロック	Kensington社製のMicroSaverセキュリティシステムに対応しています。
5. スピーカー	音声を出力します。
6. スタンド	角度が調整できます。
7. 結束バンド取り付け穴	HDMIケーブルの抜け防止のための結束バンドを取り付けます。
8. ステレオミニジャック	ステレオミニジャックケーブルを使って外部機器に接続すると、外部音声をモニターから出力できます。
9. D-Sub15ピン (ミニ) コネクタ	D-Sub出力のあるコンピュータを接続します。
10. HDMIコネクタ	HDMI信号出力のあるコンピュータを接続します。
11. DisplayPortコネクタ	DisplayPort信号出力のあるコンピュータを接続します。
12. USB-Aコネクタ (ダウンストリーム)	USBに対応している周辺機器と接続できます。
13. USB-Bコネクタ (アップストリーム)	タッチパネルモニターとして使用する場合、またはUSBハブ機能を使用する場合にUSBケーブルを接続します。

1.3 タッチペンホルダー取付方法

参考

タッチペンホルダーはタッチペン（オプション品）の付属品です。

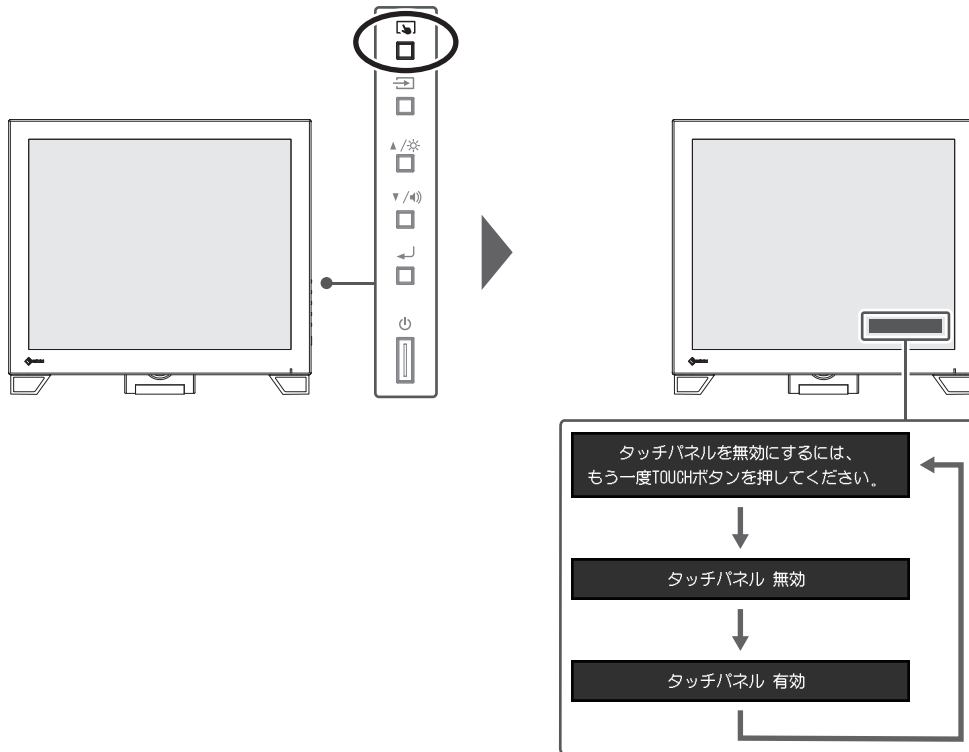
モニター背面の左右いずれかの穴にタッチペンホルダーを取り付けます。取り付けには、タッチペンホルダー取り付け用ねじを使用してください。



2 基本の調整 / 設定

2.1 タッチパネルの有効 / 無効を設定する

タッチパネルの有効 / 無効を切り替えることができます。一時的にタッチパネル機能を無効にしたい場合などに利用できます。

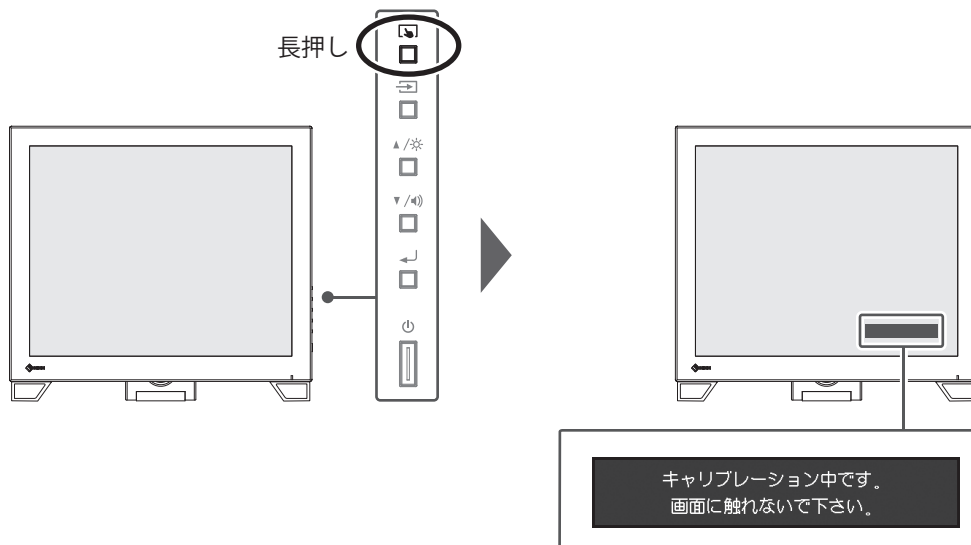


2.2 タッチ感を調整する

☑️を長押しするとタッチ感度の調整（キャリブレーション）をおこなうことができます。タッチ操作に問題がある場合に調整できます。

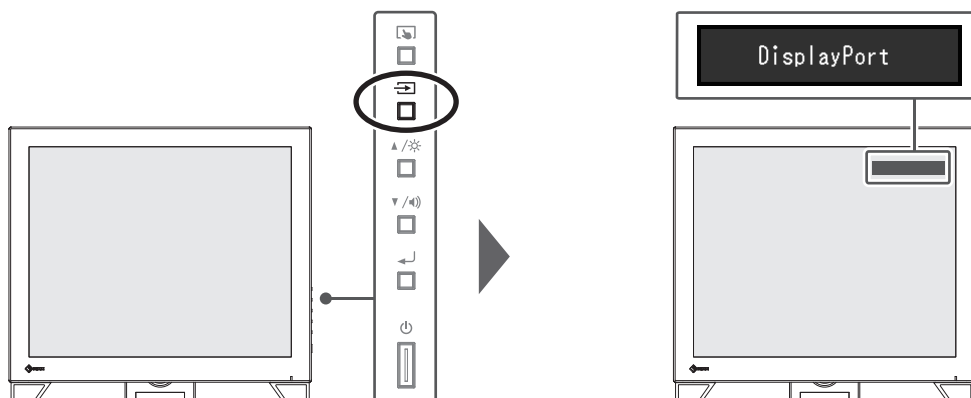
参考

- モニターの設置後にTPOffsetを必ず実行してください。
- タッチ感度の調整をおこなっても問題が改善しない場合はTPOffsetを実行してください。TPOffsetは当社のWebサイト（www.eizo.co.jp）からダウンロードすることができます。



2.3 入力信号を切り替える

モニターに複数の信号を入力している場合、画面に表示する信号を切り替えることができます。画面右上に選択された入力ポート名が表示されます。

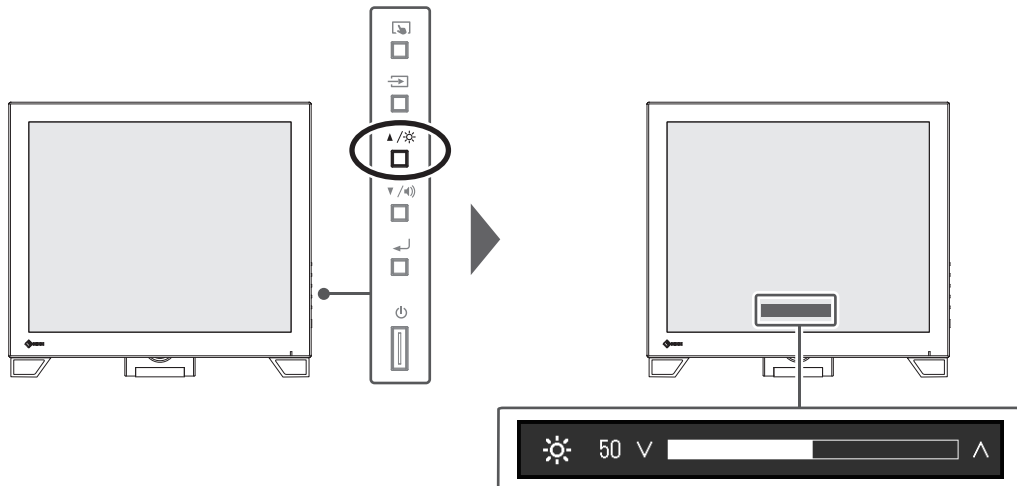


2.4 明るさを調整する

設定値：「0」～「100」

設置環境やお好みに合わせて、画面の明るさを調整できます。

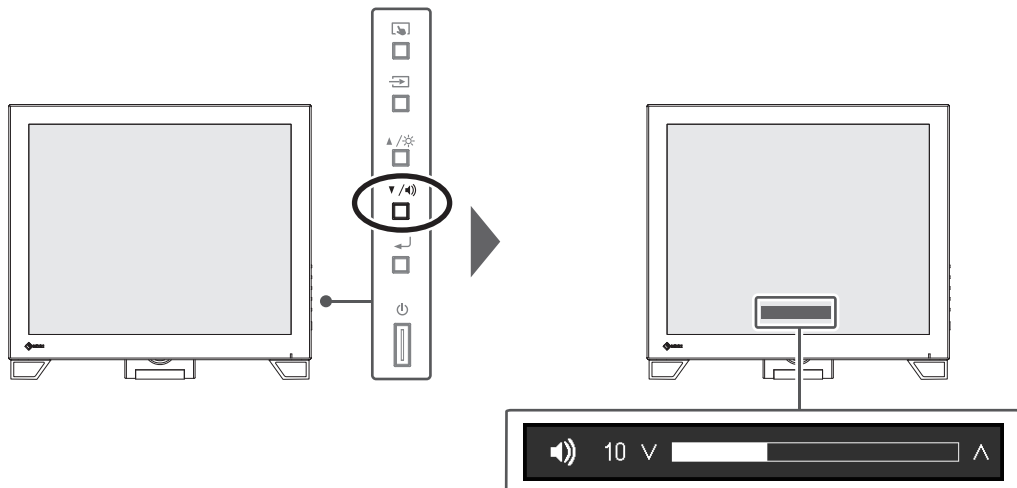
バックライト（液晶パネル背面の光源）の明るさを変化させて、画面の明るさを調整します。



2.5 音量を調整する

設定値：「0」～「30」

スピーカーの音量を、個別に設定することができます。



3 タッチパネルの設定

3.1 タッチパネルの設定方法

この製品のタッチパネルの機能は、使用するドライバおよびその設定により異なります。用途に合わせて設定してください。

機能	Windows標準ドライバ	専用のタッチパネルドライバ (DMT-DD) ^{※1}	
ドライバのインストール	不要	必要	
タッチ音の出力	×	○	
複数接続 ^{※2}	○	○	
動作モード	タッチデジタイザー ^{※3}	タッチデジタイザー ^{※3※4}	マウスエミュレーション ^{※4}
マルチタッチ操作	○	○	×

※1 当社のWebサイト (www.eizo.co.jp) からダウンロードできます。

※2 2台以上のこのモニターを1台のコンピュータに接続可能

※3 マウスエミュレーションで設計されたアプリケーション上ではタッチ操作が認識されない場合があります。

※4 設定方法の詳細はタッチパネルドライバの取扱説明書を参照してください。

参考

- 設定が完了したら、ソフトウェア「TPOffset」を実行し、タッチパネルの感度を調整してください。TPOffsetは当社のWebサイト (www.eizo.co.jp) からダウンロードすることができます。
- 初回設置の際、または設置環境を変更した場合には、「TPOffset」を必ず実行してください。

Windows標準ドライバを使用する場合は、以降の内容を参照して設定します。

3.2 タッチパネルの操作設定をおこなう

1. Windowsのコントロールパネルを開きます。

開き方はOSによって異なります。

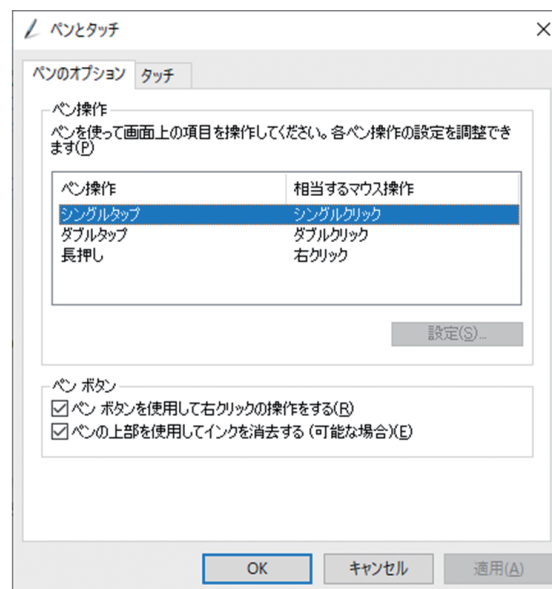
Windows 11

スタートメニューの「すべてのアプリ」 - 「Windowsツール」 - 「コントロールパネル」をクリックします。

Windows 10

スタートメニューの「すべてのアプリ」 - 「Windowsシステムツール」 - 「コントロールパネル」をクリックします。

2. 「ハードウェアとサウンド」 - 「ペンとタッチ」をクリックします。
「ペンとタッチ」画面が表示されます。



「ペンとタッチ」画面でタッチパネルの操作設定をおこないます。設定の詳細は、各設定画面やWindowsのヘルプなどを参照してください。

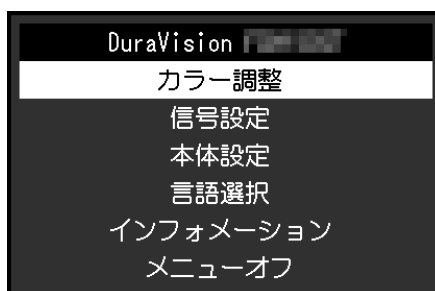
3. 設定が完了したら、「OK」をクリックして画面を閉じます。

4 詳細な調整 / 設定

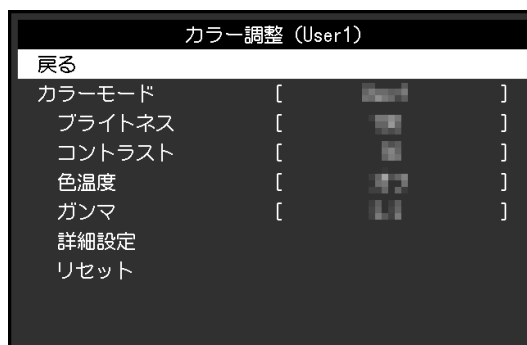
この章では、設定メニューを使ってモニターを詳細に調整 / 設定する方法を説明します。
基本的な機能については、[2 基本の調整 / 設定 \[P. 13\]](#)を参照してください。

4.1 設定メニューの基本操作方法

1. **←**を押します。
設定メニューが表示されます。



2. **▲▼**で、調整 / 設定したいメニューを選択し、**←**を押します。
サブメニューが表示されます。



3. **▲▼**で、調整 / 設定したいメニューを選択し、**←**を押します。
調整 / 設定メニューが表示されます。

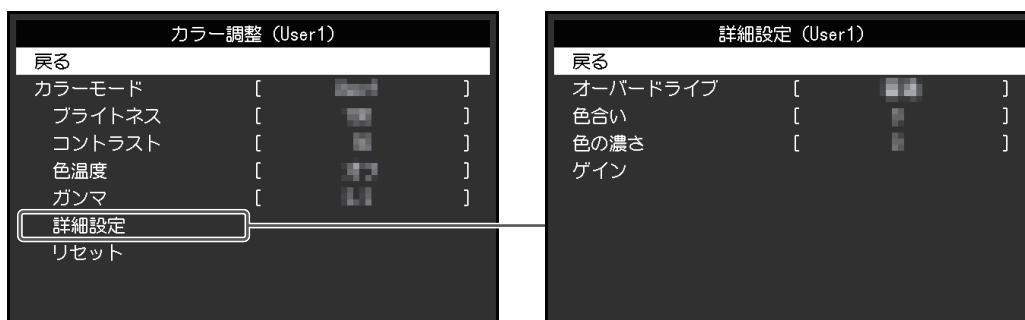


4. **▲▼**で、調整 / 設定し、**←**を押して確定します。
サブメニューが表示されます。
5. サブメニューで「戻る」を選択し、**←**を押します。
設定メニューが表示されます。
6. 設定メニューで「メニューオフ」を選択し、**←**を押します。
設定メニューが終了します。

4.2 設定メニューの各機能

4.2.1 カラー調整

カラーモードの設定状態を、お好みに合わせて調整できます。調整した設定状態はカラーモードごとに保存されます。



調整できる機能は、カラーモードにより異なります。

○：調整可、－：調整不可

機能		カラーモード	
		User1 User2	sRGB
ブライツネス		○	○
コントラスト		○	－
色温度		○	－
ガンマ		○	－
詳細設定	オーバードライブ	○	－
	色合い	○	－
	色の濃さ	○	－
	ゲイン	○	－
リセット		○	○

注意点

- ・ モニターの表示が安定するまでに、約30分かかります。モニターの調整は電源を入れて30分以上経過するまでお待ちください。
- ・ モニターにはそれぞれ個体差があるため、複数台を並べると同じ画像でも異なる色に見える場合があります。複数台の色味を近づけるには、次の手順で調整してください。
 1. それぞれのモニターに白い画面を表示する。
 2. いずれか1台のモニターを基準に視覚的に判断しながら、「ブライツネス」「色温度」「ゲイン」を微調整する。

カラーモード

設定値：「User1」 / 「User2」 / 「sRGB」

モニターの用途に応じた表示モードに切り替えます。

カラーモードの設定状態はお好みに合わせて、調整することもできます。調整するカラーモードを選択し、各機能で調整してください。

参考

- 各モードの調整状態は、次のとおりです。
 - User1、User2：お好みの表示に設定したい場合に選択します。
 - sRGB：sRGB対応の周辺機器と色を合わせる場合に適しています。

ブライトネス

設定値：「0」～「100」

バックライト（液晶パネル背面の光源）の明るさを変化させて、画面の明るさを調整します。

参考

- ブライトネスが100でも暗いと感じた場合はコントラスト調整をおこなってください。

コントラスト

設定値：「0」～「100」

ビデオ信号のレベルを変化させて、画面の明るさを調整します。

参考

- 50ですべての色階調を表示します。
- 画面の明るさは、初めに、階調特性を損なうことのないブライトネスで調整することをお勧めします。
- コントラスト調整は次のような場合に使用してください。
 - ブライトネスが100でも画面が暗いと感じたとき。（コントラストを50以上に設定します。）

色温度

設定値：「オフ」 / 「4000K」～「10000K」（500K単位、9300K含む）

色温度を調整します。

通常「白」または「黒」の色合いを数値的に表現するときに用いられるもので、K：Kelvin（ケルビン）という単位で表します。

炎の温度と同様に、画面は色温度が低いと赤っぽく表示され、高いと青っぽく表示されます。また、色温度の設定値ごとにゲインのプリセット値が設定されています。

参考

- ・ 「K」表示は調整の目安としてご利用ください。
- ・ 「ゲイン」でさらに詳細な調整が可能です（[詳細設定 - ゲイン \[P. 22\]](#)参照）。
- ・ 「オフ」で液晶パネル本来の色（ゲインの値はRGB各100）になります。
- ・ ゲインの値を変更すると、色温度は「オフ」になります。

ガンマ

設定値：「1.8」 / 「2.0」 / 「2.2」 / 「2.4」

ガンマ値を調整します。

モニターは入力信号のビデオレベルによって明るさが変化しますが、この変化率は入力信号と単純な比例関係にありません。そのため入力信号と明るさの関係が一定の関係になるよう制御をおこなうことをガンマ補正といいます。

参考

- ・ カラーモードで「sRGB」を選択すると、ガンマ値は「sRGB」と表示されます。

詳細設定 - オーバードライブ

設定値：「強」 / 「普通」 / 「オフ」

モニターの用途に応じて、オーバードライブの強さを設定することができます。

動画を表示する場合は、「強」にすることで、残像感を低減します。

参考

- ・ 表示解像度や[画面拡大 \[P. 24\]](#)の設定によっては、オーバードライブが「オフ」になる場合があります。

詳細設定 - 色合い

設定値：「-50」～「50」

色合いを調整します。

参考

- ・ この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。

詳細設定 - 色の濃さ

設定値：「-50」～「50」

色の濃さを調整します。

参考

- ・ この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。
- ・ 最小値（-50）で白黒の画面となります。

詳細設定 - ゲイン

設定値：「0」～「100」

色を構成する赤、緑、青のそれぞれの明るさをゲインと呼びます。これを調整することで、「白」の色調を変更することができます。

参考
<ul style="list-style-type: none">• この機能を使用することによって、すべての色階調を表示できないことがあります。• 色温度の値に応じてゲインの値が変わります。• ゲインの値を変更すると、色温度は「オフ」になります。

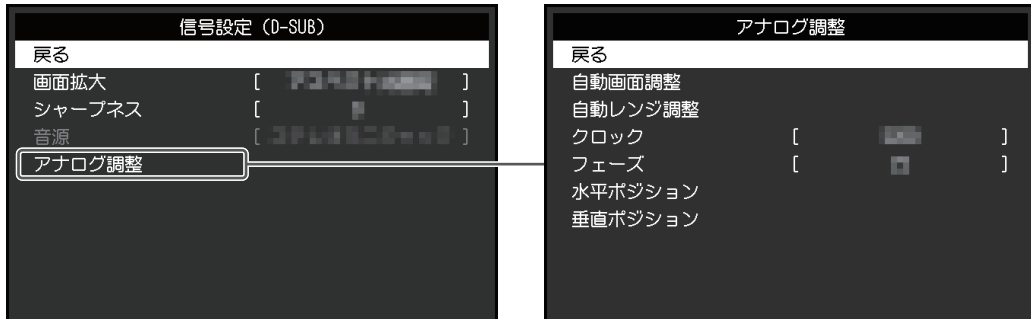
リセット

現在選択しているカラーモードのカラー調整値を初期設定に戻します。

4.2.2 信号設定

画面の表示サイズやカラーフォーマットなど、入力信号の詳細を設定します。

- D-Sub入力の場合



- HDMI / DisplayPort信号入力の場合



設定できる機能は、入力信号により異なります。

○：設定可、－：設定不可

機能	入力信号		
	DisplayPort	HDMI	D-SUB
画面拡大	○	○	○
シャープネス	○	○	○
カラーフォーマット	○	○	－
入力レンジ	○	○	－
音源	○	○	－
アナログ調整	－	－	○

画面拡大

設定値：「自動^{※1}」 / 「フルスクリーン」 / 「アスペクト比固定」 / 「等倍」

※1 HDMI[®]信号入力の場合のみ有効

モニター画面に表示するサイズを切り替えることができます。

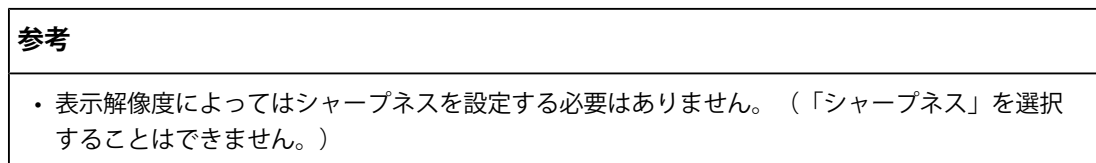
- 「自動」
コンピュータから送信されてくるアスペクト比情報と解像度情報に応じて、自動的に表示サイズを切り替えます。
- 「フルスクリーン」
画面全体に画像を表示します。ただし、拡大比率は縦、横一定ではないため、表示画像に歪みが見られる場合があります。
- 「アスペクト比固定」
画面全体に画像を表示します。ただし、拡大比率を縦、横一定にするため、水平、垂直のどちらかの方向に画像が表示されない部分が残る場合があります。
- 「等倍」
設定した解像度のまま、または入力信号のままの大きさで画像が表示されます。



シャープネス

設定値：「-2」～「2」

低解像度を画面拡大（「フルスクリーン」または「アスペクト比固定」）で表示した場合、表示された画像の文字や線が、ぼやけて見える場合があります。このぼやけを軽減することができます。



カラーフォーマット

設定値：「自動」 / 「YUV 4:2:2^{※1}」 / 「YUV 4:4:4^{※1}」 / 「YUV^{※2}」 / 「RGB」

入力された信号のカラーフォーマットを指定できます。

正しい色が表示できない場合に、設定を変更してみてください。

※1 HDMI信号入力の場合のみ有効

※2 DisplayPort信号入力の場合のみ有効

入力レンジ

設定値：「自動」 / 「フル」 / 「リミテッド」

映像再生機器によっては、モニターに出力する信号のビデオレベルの黒および白が制限されていることがあります。このような信号をリミテッドレンジといいます。一方で、制限されていない信号をフルレンジといいます。

- 「自動」

入力信号の輝度レンジを自動的に判別し、適切に表示します（推奨設定）。映像再生機器によっては、リミテッドレンジ、フルレンジをモニターが正しく判別できない場合があります。その場合、「フル」または「リミテッド」を選択することで、適切な表示にすることができます。
- 「フル」

フルレンジの信号の場合に選択します。黒も白もつぶれている場合に選択すると、適切な表示になります。
- 「リミテッド」

リミテッドレンジの信号の場合に選択します。黒が淡く、白がくすんで表示される場合に選択すると、信号の出力レンジを0～255に拡張し、適切な表示になります。

参考

- 「カラーフォーマット」で「YUV」を選択すると、設定が「リミテッド」に固定されます。また、「自動」を選択しているときでも、モニターがYUVと判別した場合は、設定が「リミテッド」に固定されます。

音源

設定値：「ステレオミニジャック」 / 「HDMI^{※1}」 / 「DisplayPort^{※2}」

HDMI信号入力時またはDisplayPort信号入力時の音源を切り替えることができます。

※1 HDMI信号入力の場合のみ有効

※2 DisplayPort信号入力の場合のみ有効

参考

- 音声信号を含まないHDMI信号入力時およびD-Sub信号入力時は、設定が「ステレオミニジャック」に固定されます。

アナログ調整 - 自動画面調整

画面のちらつき、表示位置、サイズを自動調整することができます。「自動画面調整」を選択すると、メッセージが表示されますので、「はい」を選択してください。

参考

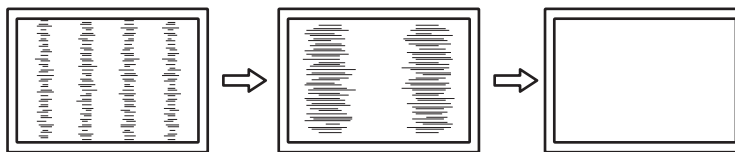
- 自動画面調整機能は画面の表示可能エリア全体に画像が表示されている場合に正しく動作します。次のような場合には、正しく動作しません。
 - コマンドプロンプトのような画面の一部にしか画像が表示されていない場合
 - 壁紙など背景を黒で使用している場合
 また、一部のグラフィックスボードで正しく動作しない場合があります。
- モニターに初めて信号を入力した場合、またはこれまでに表示したことのない解像度や垂直走査周波数、水平走査周波数に変更した場合は、自動的に調整されず（解像度が800×600（SVGA）以上の信号のみ）。

アナログ調整 - 自動レンジ調整

信号の出力レベルを調整し、すべての色階調（0～255）を表示できるように自動調整できます。「自動レンジ調整」を選択すると、メッセージが表示されますので、「はい」を選択してください。

アナログ調整 - クロック

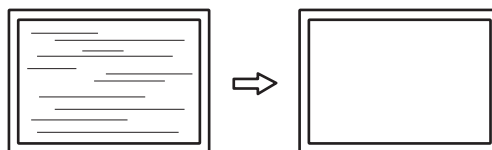
画面の縦線や画面の一部に見られるちらつきを軽減できます。

**参考**

- 設定が合ったポイントを見逃しやすいので、細かく調整してください。

アナログ調整 - フェーズ

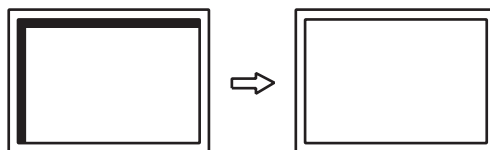
画面全体のちらつきやにじみを軽減できます。

**参考**

- お使いのコンピュータやグラフィックスボードによっては、完全になくなるものがあります。
- 設定後、画面に縦縞が現れた場合は、再度「クロック」を調整してください。

アナログ調整 - 水平ポジション / 垂直ポジション

画面の表示位置（水平、垂直）を調整できます。



参考

- 液晶モニターは画素数および画素位置が固定であるため、画像の正しい表示位置は1箇所です。ポジション調整とは画像を正しい位置に移動するための調整です。

4.2.3 本体設定

使用環境やお好みに合わせて、モニター本体の設定をおこないます。



パワーセーブ

設定値：「オン」 / 「オフ」

コンピュータの状態と連動して、モニターを省電力モードにすることができます。信号が入力されなくなったことを検出してから、約15秒後に省電力モードに移行します。省電力モードに移行すると、画面が非表示になり、音声も出力されません。

- 省電力モードからの復帰方法
 - ボタンまたは ボタンを押す
 - モニターに信号が入力される

参考

- 省電力モードの移行の5秒前になると、移行をお知らせするメッセージが表示されます。
- モニターを使用しないときは、主電源を切るか、電源プラグを抜くことで電力が消費されなくなります。
- [Compatibility Mode \[P. 30\]](#)の設定が「On」の場合、モニターが省電力モードに移行しても、USBダウンストリームポートに接続している機器は動作します。そのためモニターの消費電力は、省電力モードであっても接続される機器によって変化します。

ランプ輝度

設定値：「1」～「7」 / 「オフ」

操作ボタンおよび電源ボタンの明るさを設定することができます。値が大きいほど電源ランプは明るく点灯し、小さいほど暗くなります。「オフ」では電源スイッチのランプは消灯した状態です。（初期設定：4）

オールリセット

次の設定を除く、すべての設定内容を初期設定に戻します。

- ・「Administrator Settings」メニュー内の設定
- ・タッチパネルの有効 / 無効の設定

4.2.4 言語選択

設定値：「英語」 / 「ドイツ語」 / 「フランス語」 / 「スペイン語」 / 「イタリア語」 / 「スウェーデン語」 / 「日本語」 / 「簡体中国語」 / 「繁体中国語」

メニューやメッセージの表示言語を選択することができます。



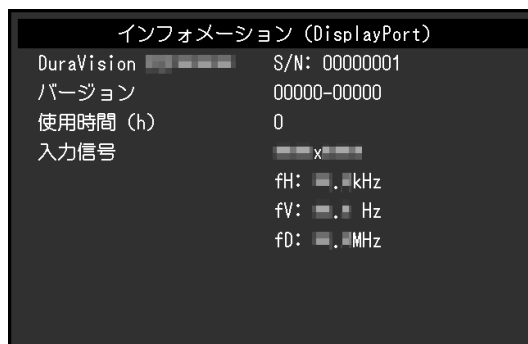
注意点

- ・「Administrator Settings」メニューの表示言語（英語）は変更されません。

4.2.5 インフォメーション

モニターの情報（製品名、製造番号（S/N）、ファームウェアバージョン、使用時間）と、入力信号の情報を確認できます。




例：

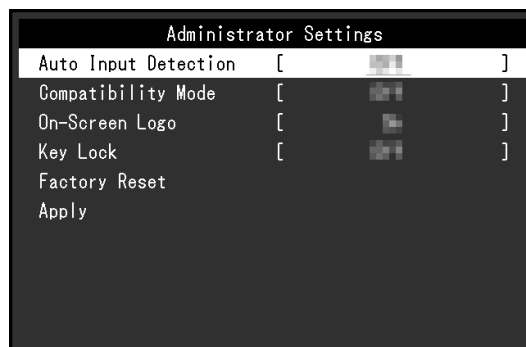





5 管理者向け設定

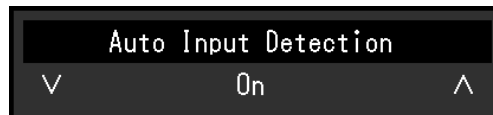
この章では、「Administrator Settings」メニューを使ってモニターの動作を設定する方法を説明します。





5.1 「Administrator Settings」メニューの基本操作方法

1.  を押し、モニターの電源を切ります。
2.  を押しながら、 を2秒以上押してモニターの電源を入れます。
「Administrator Settings」メニューが表示されます。



3.   で、設定したい項目を選択し、 を押します。
調整 / 設定メニューが表示されます。

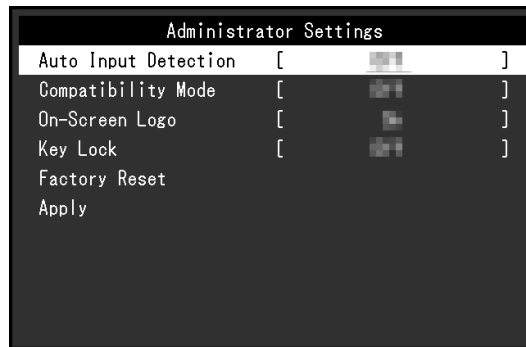


4.   で、設定し、 を押します。
「Administrator Settings」メニューが表示されます。
5. 「Apply」を選択し、 を押します。
設定が確定し、「Administrator Settings」メニューが終了します。

注意点

- 「Administrator Settings」メニューの言語（英語）は変更できません。

5.2 「Administrator Settings」メニューの各機能



Auto Input Detection

設定値：「On」 / 「Off」

信号が入力されているコネクタを自動的に判別して画面を表示することができます。

- 「On」
複数のコンピュータを接続している場合に、特定のコンピュータが省電力モードに入ったりモニターへの入力信号が失われたときは、信号が入力されている他のコネクタに自動的に切り替わります。
- 「Off」
入力信号の選択を手動でおこなう場合、この設定にします。モニター前面の操作スイッチ (⇒) で、表示する信号を選択してください (2.3 入力信号を切り替える [P. 14] 参照)。

参考

- この機能が「On」に設定されている場合は、すべてのコンピュータから信号が入力されなくなったときのみ、モニターの省電力機能が動作します。

Compatibility Mode

設定値：「On」 / 「Off」

次の現象を回避したい場合は、この機能を「On」に設定してください。

- モニターの電源をオフ/オンした場合や省電力モードからの復帰時に、ウィンドウやアイコンの位置がずれる。
- マウスやキーボード操作をしてもコンピュータがスリープから復帰しない。
- モニターの電源がオフのとき、USBダウンストリームポートに接続されている機器が動作しない、または、接続されている機器に電源が供給されない。

On-Screen Logo

設定値：「On」 / 「Off」

この製品の電源を入れると、画面にロゴが表示されます。

この機能を「Off」に設定すると、ロゴを非表示にすることができます。

Key Lock

設定値：「Off」 / 「Menu」 / 「All」

設定した状態を変更できないように、モニター側面の操作ボタンをロックすることができます。

- 「Off」（初期設定）
すべてのボタンが有効です。
- 「Menu」
← ボタンをロックします。
- 「All」
電源ボタンを除くすべてのボタンをロックします。


Factory Reset

お買い上げ時の設定に戻します。

6 こんなときは

6.1 画面が表示されない場合


電源スイッチのランプが点灯しない

- 電源コードは正しく接続されていますか。
- 主電源を入れてください。
- を押してください。
- 主電源を切り、数分後にもう一度電源を入れてみてください。

電源スイッチのランプが点灯：青色

- 設定メニューの「ブライトネス」、「コントラスト」、「ゲイン」の各調整値を上げてみてください（[カラー調整 \[P. 19\]](#)参照）。


電源スイッチのランプが点灯：橙色

- で入力信号を切り替えてみてください。
- 「Administrator Settings」メニューの「Compatibility Mode」で、設定を「On」にしてください（[Compatibility Mode \[P. 30\]](#)参照）。
- マウス、キーボードを操作してみてください。
- タッチパネル面にタッチしてみてください。
- コンピュータの電源は入っていますか。
- 主電源を切り、再度電源を入れてみてください。

画面に「入力信号無し」のメッセージが表示される

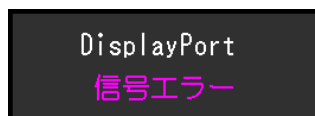
例：



- コンピュータによっては電源を入れても信号がすぐに出されないため、上のような画面が表示されることがあります。
- コンピュータの電源は入っていますか。
- 信号ケーブルは正しく接続されていますか。選択している入力信号のコネクタに信号ケーブルを接続してください。
- で入力信号を切り替えてみてください。
- 主電源を切り、再度電源を入れてみてください。
- 「Administrator Settings」メニューの「Auto Input Detection」の設定を「Off」にして、手動で入力信号を切り替えてみてください（[Auto Input Detection \[P. 30\]](#)参照）。

画面に「信号エラー」のメッセージが表示される

例：



- コンピュータの設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか（7.5 対応解像度 [P. 48]参照）。
- コンピュータを再起動してみてください。
- グラフィックスボードのユーティリティなどで、適切な設定に変更してください。詳細はグラフィックスボードの取扱説明書を参照してください。

6.2 画面に関する症状（デジタル、アナログ共通）

画面が明るすぎる / 暗すぎる

- 設定メニューの「ブライトネス」、「コントラスト」を調整してください（カラー調整 [P. 19]参照）。（液晶モニターのバックライトには、寿命があります。画面が暗くなったり、ちらついたりするようになったら、お客様ご相談窓口にお問い合わせください。）

文字や画像がぼやけて見える

- コンピュータの設定が、この製品で表示できる解像度、垂直走査周波数になっていますか（7.5 対応解像度 [P. 48]参照）。
- OSの拡大表示の設定を「100%」にしてみてください。複数のモニターを使用している場合は、すべてのモニターの拡大表示の設定を「100%」にしてみてください。

残像が現れる

- この現象は液晶パネルの特性であり、固定画面で長時間使用することをできるだけ避けることをお勧めします。
- 長時間同じ画像を表示する場合は、コンピュータのスクリーンセーバーまたはパワーセーブ機能を使用してください。
- 表示する画像によっては、短い時間でも残像が見えることがあります。その場合、画像を変更したり、数時間電源を切った状態にすると、解消されることがあります。

画面に緑、赤、青、白のドットが残る / 点灯しないドットが残る

- これらのドットが残るのは液晶パネルの特性であり、故障ではありません。

画面上に干渉縞が見られる / 液晶パネルを押した跡が消えない

- 画面全体に白い画像または黒い画像を表示してみてください。症状が解消されることがあります。

画面にノイズが現れる

- 設定メニューの「オーバードライブ」の設定を「オフ」にしてみてください（[詳細設定 - オーバードライブ \[P. 21\]](#)参照）。
- HDCP方式の信号を入力した場合、正常な画面がすぐに表示されないことがあります。

電源のオフ / オン時や省電力モードからの復帰時に、ウィンドウやアイコンの位置がずれる

- 「Administrator Settings」メニューの「Compatibility Mode」で、設定を「On」にしてください（[Compatibility Mode \[P. 30\]](#)参照）。

画面の色がおかしい

- 設定メニューの「カラーフォーマット」を変更してみてください（[カラーフォーマット \[P. 24\]](#)参照）。

画面全体に画像が表示されない

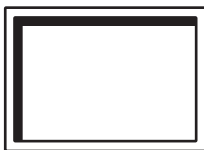
- 設定メニューの「画面拡大」を変更してみてください（[画面拡大 \[P. 24\]](#)参照）。
- コンピュータの解像度の設定がモニターの解像度と一致しているか確認してください。

画面を拭いても曇りが取れない / ガラスの内側に結露が生じた

- 画面を拭いても曇りが取れない場合は、液晶パネルを保護しているガラスの内側に結露が生じていることがあります。しばらくすると結露は消えます。なお、このようにガラスの内側に結露が発生しても、製品の故障や劣化には影響はありません。

6.3 画面に関する症状（アナログのみ）

画面がずれている



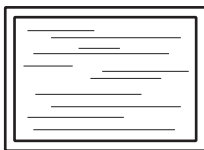
- 設定メニューの「水平ポジション」「垂直ポジション」で画像の位置を合わせてください（[アナログ調整 - 水平ポジション / 垂直ポジション \[P. 27\]](#)参照）。
- グラフィックスボードのユーティリティなどに画像の位置を変える機能があれば、その機能を使用して調整してください。

画面に縦線が出ている / 画面の一部がちらついている



- 設定メニューの「クロック」で調整してみてください（[アナログ調整 - クロック \[P. 26\]](#)参照）。



画面全体がちらつく、にじむように見える




- 設定メニューの「フェーズ」で調整してみてください（[アナログ調整 - フェーズ \[P. 26\]](#)参照）。

6.4 タッチパネルに関する症状

タッチ操作が効かない

- モニターとコンピュータがUSBケーブルで接続されていることを確認してください。
- を押してみてください（[2.1 タッチパネルの有効 / 無効を設定する \[P. 13\]](#)参照）。
- モニターおよびコンピュータの電源コードのアースが接地されていることを確認してください。アースが接地されていないと、誤動作の原因となることがあります。
- を長押ししてみてください（[2.2 タッチ感度を調整する \[P. 14\]](#)参照）。
- TPOffsetを実行して、タッチパネルの感度を調整してみてください。

タッチ位置とカーソル位置がずれる / カーソルが飛ぶ

- 付属のケーブルでモニターとコンピュータを接続してください。変換アダプタなどを利用すると、タッチパネルが正しく動作しない場合があります。
- モニターの電源を入れ直してみてください。
- 専用のタッチパネルドライバを使用している場合は、タッチパネルドライバの取扱説明書を参照し、ソフトウェアキャリブレーションを実行してください。
- モニターおよびコンピュータの電源コードのアースが接地されていることを確認してください。アースが接地されていないと、誤動作の原因となることがあります。
- を長押ししてみてください（[2.2 タッチ感度を調整する \[P. 14\]](#)参照）。
- モニターの位置や角度を変更すると、カーソルが飛ぶ場合があります。
- タッチパネル面の近くに金属などの誘電性の高いものが配置されていると、誤動作の原因となることがあります。タッチパネル面と金属などは、少なくとも10 mm以上離して使用してください。
- タッチパネルが汚れていると、誤動作する場合があります。タッチパネル面のクリーニングをおこなってください（[クリーニング \[P. 4\]](#)参照）。

- タッチパネル面のクリーニングに帯電防止剤入りのクリーナを使用するとタッチパネルの感度に影響し、カーソル位置がずれる原因になることがあります。
- コンピュータやモニターの起動時、およびUSBケーブルの接続後、5秒間はタッチしないでください。カーソル位置がずれたり、タッチ操作が効かなくなる場合があります。その場合は、モニターの電源を入れ直してください。
- TPOffsetを実行して、タッチパネルの感度を調整してみてください。
- モニターの画面拡大設定を「フルスクリーン」で使用してください。
- 推奨解像度以外の解像度で表示する場合、グラフィックスボードのスケーリング機能の影響でタッチ位置とカーソル位置がずれることがあります。グラフィックスドライバの設定を確認し、グラフィックスドライバでのスケーリングからモニターのスケーリングに変更してください。

カーソルがタッチ位置に表示されず、モニターの中央を中心に点対称の位置に表示される

- 専用のタッチパネルドライバを使用している場合は、タッチパネルドライバの取扱説明書を参照し、ソフトウェアキャリブレーションを実行してください。

カーソルが揺れる / 描画線が安定しない

- モニターおよびコンピュータの電源コードのアースが接地されていることを確認してください。アースが接地されていないと、誤動作の原因となることがあります。
- TPOffsetを実行して、タッチパネルの感度を調整してみてください。
- タッチパネル面の近くに金属などの誘電性の高いものが配置されていると、誤動作の原因となることがあります。タッチパネル面と金属などは、少なくとも10 mm以上離して使用してください。
- 複数台のモニターを近接して設置している場合は、モニター間の間隔をあけて設置してください。

タッチ位置の補正が正しく動作しない

- 専用のタッチパネルドライバを使用している場合は、タッチパネルドライバの取扱説明書を参照してください。

タッチ音が鳴らない

- Windows 標準ドライバを使用している場合、タッチ音は鳴りません。タッチ音を鳴らす場合は専用のタッチパネルドライバを使用してください ([3.1 タッチパネルの設定方法 \[P. 16\]](#)参照)。

マルチタッチが動作しない

- コンピュータを再起動してみてください。
- 専用のタッチパネルドライバを使用している場合は、タッチパネルドライバの取扱説明書を参照してください。

6.5 その他の症状

設定メニューが表示できない

- 操作スイッチのロックが機能していないか確認してみてください（[Key Lock \[P. 31\]](#)参照）。

設定メニューの項目が選択できない

- グレーの文字で表示されている項目は、変更できません。
- カラーモードによっては「カラー調整」の項目が変更できません。カラーモードを「User1」または「User2」にすると、すべての項目が変更できます（[カラー調整 \[P. 19\]](#)参照）。

音が出ない

- 音量が「0」になっていませんか。
- コンピュータおよび音声を再生しているソフトウェアの設定を確認してください。
- DisplayPort信号入力時およびHDMI信号入力時は「音源」の設定を確認してみてください（[音源 \[P. 25\]](#)参照）。
- D-Sub入力時はステレオミニジャックケーブル（市販品）が接続されているか確認してください。

モニターに接続しているUSB周辺機器が動作しない

- コンピュータとモニターがUSBケーブルで正しく接続されていますか。
- 周辺機器とモニターがUSBケーブルで正しく接続されていますか。
- モニターの別のUSBポートに差し替えてみてください。
- コンピュータの別のUSBポートに差し替えてみてください。
- 周辺機器のUSBドライバを更新してください。
- コンピュータを再起動してみてください。
- 「Administrator Settings」メニューの「Compatibility Mode」の設定が「Off」で、モニターの電源がオフのとき、USBダウンストリームポートに接続されている機器は動作しません。「Compatibility Mode」の設定を「On」にしてください（[Compatibility Mode \[P. 30\]](#)参照）。
- 直接コンピュータと周辺機器を接続してみて、周辺機器が正しく動作した場合は、お客様ご相談窓口にお問い合わせください。
- Windowsをご使用の場合、コンピュータに搭載されているBIOSのUSBに関する設定をご確認ください（詳細はコンピュータの取扱説明書を参照してください）。
- コンピュータのOSをアップデートしてください。

電源ランプが点滅する（橙色）

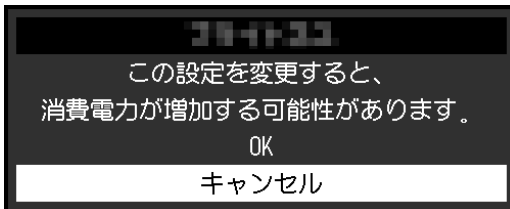
- コンピュータをDisplayPortコネクタに接続している場合に、この症状が発生することがあります。当社指定の信号ケーブルで接続し、モニターの電源を入れ直してみてください。
- モニターに接続しているUSB周辺機器の接続および状態を確認してください。
- 背面の主電源スイッチを切り、もう一度スイッチを入れてみてください。

マウスやキーボード操作をしてもコンピュータがスリープから復帰しない

- 「Administrator Settings」メニューの「Compatibility Mode」で、設定を「On」にしてください（[Compatibility Mode \[P. 30\]](#)参照）。

画面に「この設定を変更すると、消費電力が増加する可能性があります。」のメッセージが表示される

例：



消費電力が増加する可能性のある機能を使用する場合、初回のみ表示されるメッセージです。「OK」を選択すると、次の操作に進めます。

7 ご参考に

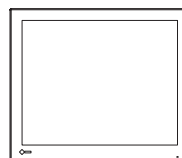
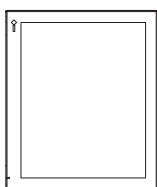
7.1 アーム取り付け方法

この製品はスタンド部分を取り外すことによって、オプションアーム（またはオプションスタンド）に取り付けることが可能になります。対応しているオプションアーム（またはオプションスタンド）については、当社のWebサイトを参照してください。

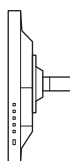
(www.eizo.co.jp)

アームまたはスタンド取り付け時の設置可能な方向および可動範囲（チルト角）は次のとおりです。

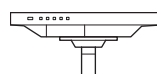
- 設置方向



- 可動範囲（チルト角）



標準 (0°)



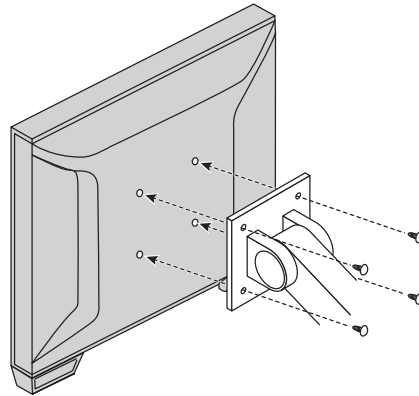
上 : 90°

注意点

- 取り付けの際は、アームまたはスタンドの取扱説明書の指示に従ってください。
- 他社製のアームまたはスタンドを使用する場合は、次の点をアームまたはスタンドメーカーにご確認の上、VESA規格準拠のものを選択してください。
 - 取り付け部のねじ穴間隔：100 mm×100 mm
 - プレート部の厚み：2.6 mm
 - 許容質量：モニター本体の質量（スタンドなし）とケーブルなどの装着物の総質量に耐えられること
- 他社製のアームまたはスタンドを使用する場合、取り付けには次のねじをご使用ください。
 - 本体部分とスタンドを固定しているねじ
- ケーブル類は、アームまたはスタンドを取り付けた後に接続してください。
- モニターおよびアームまたはスタンドは重いため、落としたりするとけがや故障の原因になります。
- 定期的になじみの締め付けを確認してください。締め付けが不十分な場合、モニターが外れ、けがや故障の原因になります。

1. 液晶パネル面が傷つかないように、安定した場所に柔らかい布などを敷いた上に、液晶パネル面を下に向けて置きます。

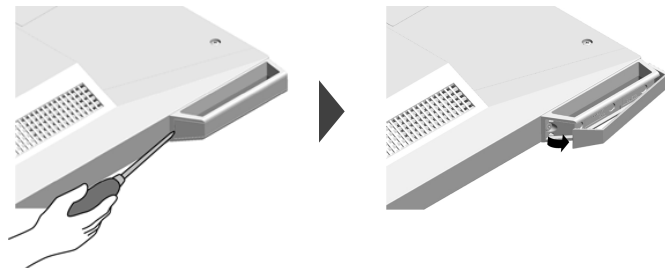
2. スタンド部分を取り外します。
ドライバを使って、本体部分とスタンドを固定しているねじを取り外します。
3. モニターにアーム（またはスタンド）を取り付けます。
アームまたはスタンドの取扱説明書で指定のねじを使って取り付けます。



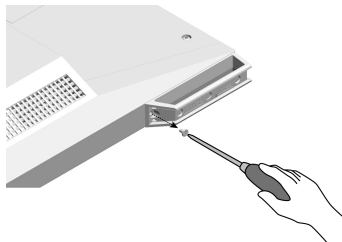
参考

- 縦置きに設置するときは、次の手順でモニターの底面の脚を取り外してください。

1. 脚のカバーを取り外します。



2. 本体部分と脚を固定しているねじを取り外します。



3. 次の図のように、モニターの外側に向かってスライドして脚を取り外します。
ねじ穴隠しシートを貼ると穴をふさぐことができます。

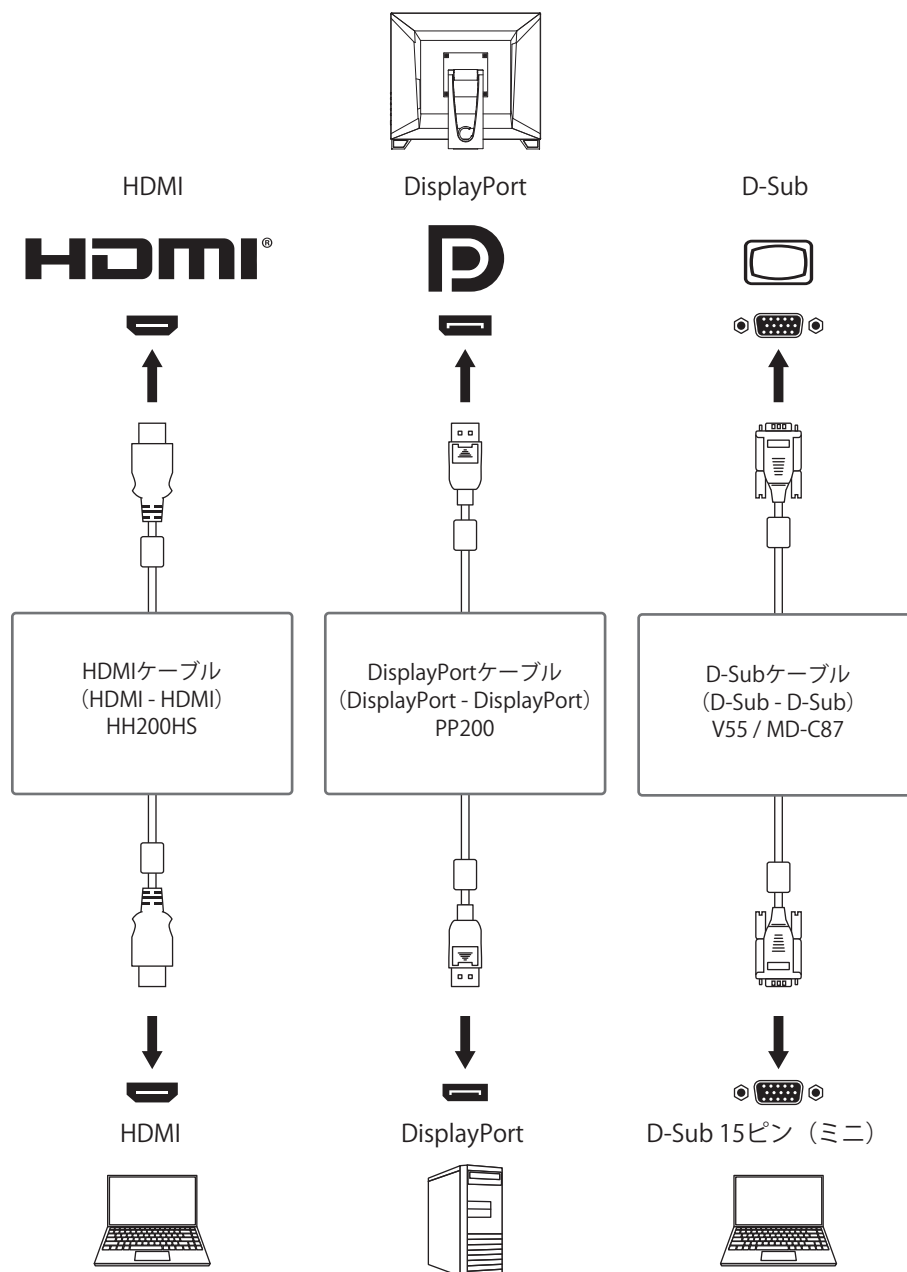


- 取り外した部品は大切に保管してください。

7.2 複数のコンピュータを接続する

この製品は、複数のコンピュータを接続し、切り替えて表示することができます。

接続例




HDMI
HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

注意点

- タッチパネルはUSB接続されているコンピュータに対してのみ動作します。

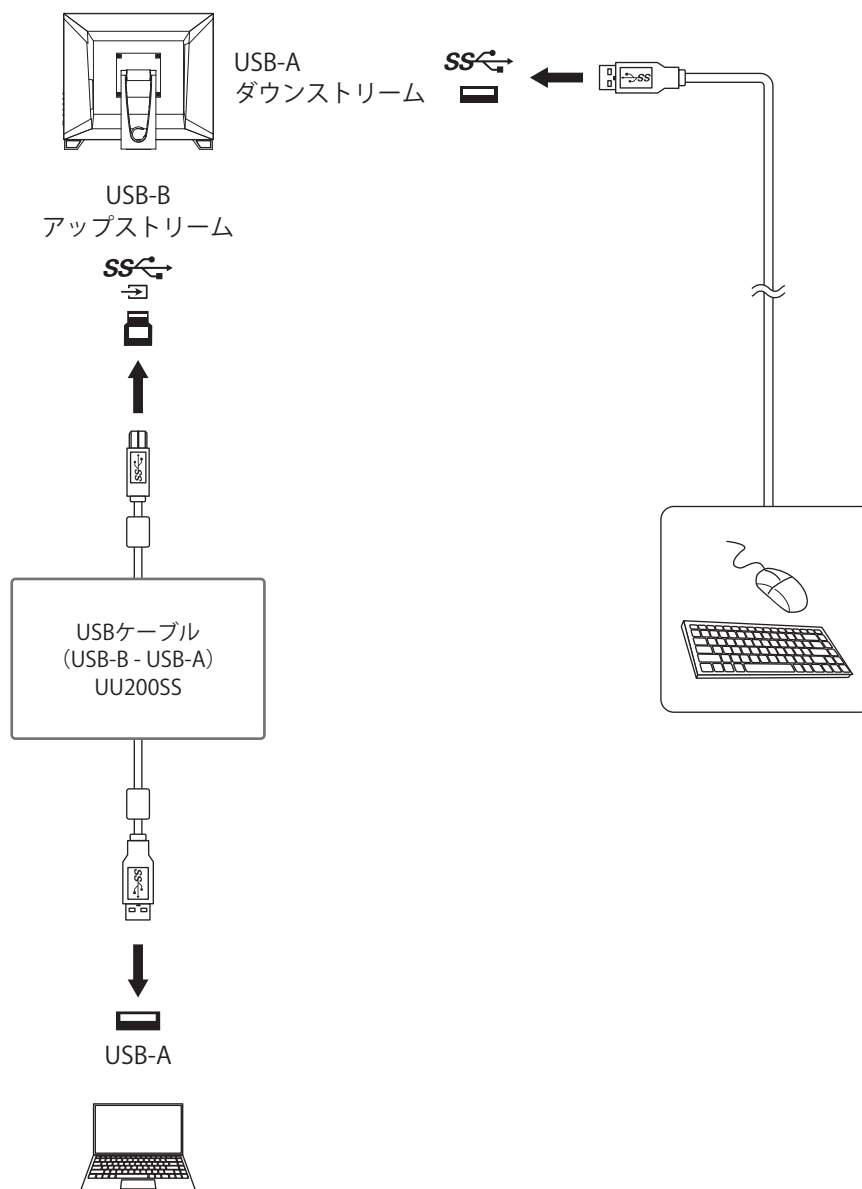
参考

- モニター側面の操作ボタン（）で表示する入力信号を選択できます（[2.3 入力信号を切り替える \[P. 14\]](#)参照）。
- 信号が入力されているコネクタを自動的に判別して画面を表示する機能を搭載しています（[Auto Input Detection \[P. 30\]](#)参照）。

7.3 USBハブ機能の使用方法

この製品はUSBハブを搭載しています。USB対応のコンピュータに接続することにより、この製品がUSBハブとして機能し、USBに対応している周辺機器と接続できます。

1. USBケーブルを接続します。
2. 必要に応じて、USBダウンストリームポートに、マウスやキーボードなどの機器を接続します。



注意点

- 使用するコンピュータ、OSおよび周辺機器によっては動作しない場合があります。各機器のUSB対応については各メーカーにお問い合わせください。
- モニターが省電力モードの場合も、USBダウンストリームポートに接続している機器は動作します。そのためモニターの消費電力は、省電力モードであっても接続される機器によって変化します。
- 主電源スイッチオフ時、USBダウンストリームポートに接続されている機器は動作しません。
- [Compatibility Mode \[P. 30\]](#)の設定が「Off」の場合で、モニターの電源がオフのとき、USBダウンストリームポートに接続されている機器は動作しません。

参考

- この製品はUSB 5Gbpsに対応しています。USB 5Gbpsに対応した周辺機器を接続すると、高速のデータ通信が可能になります。

7.4 仕様

7.4.1 液晶パネル

種類	IPS（アンチグレア）
バックライト	LED
サイズ	17.0型（43.3 cm）
解像度	1280ドット×1024ライン
表示面積（横×縦）	337.9 mm×270.3 mm
画素ピッチ	0.264 mm×0.264 mm
表示色	8 bitカラー：1677万色
視野角（水平 / 垂直、標準値）	178° / 178°
コントラスト比（標準値）	1000 : 1
応答速度（標準値）	14 ms（中間階調域）

7.4.2 タッチパネル

表面処理	アンチグレア
表面硬度	5H
通信手段	USB転送
検出方式	投影型静電容量方式
対応OS ^{※1}	Windows 11 Windows 10（32ビット版 / 64ビット版）
同時タッチ点数	10点まで

※1 OS提供元のサポート終了にともない、当社のサポートも終了します。

7.4.3 映像信号

入力端子		DisplayPort (HDCP 1.3対応) ×1 HDMI (HDCP 1.4対応) ^{※1} ×1 D-Sub15ピン (ミニ) ×1
デジタル走査周波数 ^{※2}	DisplayPort	水平：31 kHz～64 kHz 垂直：59 Hz～60 Hz (720×400：69 Hz～71 Hz)
	HDMI	水平：31 kHz～64 kHz 垂直：59 Hz～60 Hz (720×400：69 Hz～71 Hz)
アナログ走査周波数 ^{※2}	D-Sub	水平：31 kHz～80 kHz 垂直：56 Hz～75 Hz
フレーム同期モード		49 Hz～61 Hz
ドットクロック (最大)	DisplayPort	108.0 MHz
	HDMI	108.0 MHz
	D-Sub	135.0 MHz

※1 HDMI CEC機能 (相互制御機能) には対応していません。

※2 解像度により対応可能な垂直走査周波数は異なります (7.5 対応解像度 [P. 48] 参照)。

7.4.4 USB

ポート	アップストリーム	USB-B×1
	ダウンストリーム	USB-A×2
規格		USB Specification Revision 3.2
通信速度		5 Gbps、480 Mbps、12 Mbps、1.5 Mbps
供給電源	ダウンストリーム (USB-A)	最大900 mA / 1ポート

7.4.5 音声

音声入力フォーマット	DisplayPort	2ch リニアPCM (32 kHz / 44.1 kHz / 48 kHz / 88.2 kHz / 96 kHz / 176.4 kHz / 192 kHz)
	HDMI	2ch リニアPCM (32 kHz / 44.1 kHz / 48 kHz / 88.2 kHz / 96 kHz / 176.4 kHz / 192 kHz)
スピーカー		2 W+2 W
入力端子		ステレオミニジャック×1
		DisplayPort×1 HDMI×1 (いずれも映像信号と共用)

7.4.6 電源

電源入力	AC 100 - 240 V ± 10 %、50 / 60 Hz、0.75 - 0.40 A
最大消費電力	45 W以下
省電力時消費電力	0.5 W以下 ^{※1}
待機時消費電力（標準値）	0.3 W ^{※1}

※1 USBアップストリームポート非接続、「Administrator Settings」メニューの「Compatibility Mode」：「Off」、外部負荷非接続、製品初期設定

7.4.7 機構

外観寸法（幅×高さ×奥行）	レイドバックスタンド仕様： 391.8 mm×141.6 mm×400.4 mm（チルト角度 70°時） 391.8 mm×348.0 mm×214.9 mm（チルト角度 15°時） チルトスタンド仕様： 391.8 mm×419.3 mm×186.2 mm（チルト角度 30°時） 391.8 mm×410.8 mm×157.0 mm（チルト角度 0°時）
外観寸法（幅×高さ×奥行）（モニター部）	391.8 mm×330.6 mm×54.0 mm
質量	レイドバックスタンド仕様：約4.4 kg チルトスタンド仕様：約6.3 kg
質量（モニター部）	約3.9 kg
チルト	レイドバックスタンド仕様：15°～70° チルトスタンド仕様：上30°、下0°

7.4.8 動作環境条件

温度	5 °C～35 °C
湿度	20 %～80 %（R.H.、結露なきこと）
気圧	540 hPa～1060 hPa

7.4.9 輸送 / 保存環境条件

温度	-20 °C～60 °C
湿度	10 %～92 %（R.H.、結露なきこと）
気圧	200 hPa～1060 hPa

7.5 対応解像度

この製品は次の解像度に対応しています。

○：対応、－：非対応

解像度	垂直走査周波数 (Hz)	DisplayPort	HDMI	D-Sub
640×480	59.940	○	○	○
640×480	60.000	○	○	－
640×480	72.809	－	－	○
640×480	75.000	－	－	○
720×400	70.087	○	○	○
720×480	59.940	○	○	－
720×480	60.000	○	○	－
800×600	56.250	－	－	○
800×600	60.317	○	○	○
800×600	72.188	－	－	○
800×600	75.000	－	－	○
1024×768	60.004	○	○	○
1024×768	70.069	－	－	○
1024×768	75.029	－	－	○
1280×720	59.940	○	○	－
1280×720	60.000	○	○	○
1280×960	60.000	○	○	○
1280×1024 ^{※1}	60.020	○	○	○
1280×1024 ^{※1}	75.025	－	－	○

※1 推奨解像度

参考
・ スキャン方式はプログレッシブにのみ対応しています。

付録

商標

HDMI、HDMI High-Definition Multimedia Interfaceという語、HDMIのトレードドレスおよびHDMIのロゴは、HDMI Licensing Administrator, Incの商標または登録商標です。

DisplayPort、DisplayPortコンプライアンスロゴ、VESAは、Video Electronics Standards Associationの米国およびその他の国における商標です。

SuperSpeed USB Trident LogoはUSB Implementers Forum, Inc.の登録商標です。



SuperSpeed USB Power Delivery Trident LogoはUSB Implementers Forum, Inc.の商標です。



USB Type-C、USB-CはUSB Implementers Forum, Incの登録商標です。

DICOMは、National Electrical Manufacturers Associationが所有する、医用情報のデジタル通信に関する規格の登録商標です。

Kensington、MicrosaverはACCO Brands Corporationの登録商標です。

ThunderboltはIntel Corporationの米国および/またはその他の国における商標です。

Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

AdobeはAdobe（アドビ）の米国およびその他の国における登録商標です。本書はAdobeの発行元であるAdobe（アドビ）によって承認、支持、または公表されたものではありません。

Apple、macOS、Mac OS、OS X、macOS Sierra、Macintosh、ColorSyncはApple Inc.の商標です。

ENERGY STARは米国環境保護庁の米国およびその他の国における登録商標です。

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc.が所有権を有します。

EIZO、EIZOロゴ、ColorEdge、CuratOR、DuraVision、FlexScan、FORIS、RadiCS、RadiForce、RadiNET、Raptor、ScreenManagerはEIZO株式会社の日本およびその他の国における登録商標です。

ColorEdge Tablet Controller、ColorNavigator、EcoView NET、EIZO EasyPIX、EIZO Monitor Configurator、EIZO ScreenSlicer、G-Ignition、i・Sound、Quick Color Match、RadiLight、Re/Vue、SafeGuard、Screen Administrator、Screen InStyle、ScreenCleaner、UniColor ProはEIZO株式会社の商標です。

その他の会社名、商品名およびロゴマークは所有者の商標または登録商標です。

ライセンス

この製品上で表示される文字には、リコーインダストリアルソリューションズ株式会社が制作したビットマップフォントを使用しています。

医療規格

この製品を用いる医療用途の装置を設計、使用する場合は、IEC60601-1の規格要求に従ってください。

EMC情報

DuraVision FDS1783Tは、画像を適正に表示する性能を有しています。

意図した使用環境

DuraVision FDS1783Tは次の環境での使用を意図しています。

- ・ 医院・病院などの専門的ヘルスケア施設内の環境

次のような環境での使用は意図していません。

- ・ ホームヘルスケア環境
- ・ 電気メスなどの高周波手術機器の近傍
- ・ 短波治療機器の近傍
- ・ MRI用RF遮蔽室内
- ・ 遮蔽された場所の特殊環境内
- ・ 救急車両を含む車載
- ・ その他特殊環境

警告

- ・ DuraVision FDS1783Tは、EMC（電磁両立性）に関する特別な安全上の注意を必要とします。EMC情報および本書内の「使用上の注意」をよくお読みになり、以下の指示に従って、設置、操作する必要があります。

警告

- ・ DuraVision FDS1783Tは、他の機器に隣接した設置や積み重ねた状態で使用をしないでください。やむを得ずその状態で使用する場合は、DuraVision FDS1783Tおよびシステムが実際に使用される構成で正常に動作することを確認してください。

警告


- ・ 携帯型RF通信機器は、ケーブルを含むDuraVision FDS1783Tのいかなる部分に対しても、30 cm（12インチ）以上離して使用してください。DuraVision FDS1783Tに影響を与える恐れがあります。

警告

- ・ 信号入力部または出力部に追加装置を接続し、医療システムで使用する場合は、必ずIEC60601-1-2の要件に準拠してください。

警告

- ・ DuraVision FDS1783Tの使用中は信号入出力コネクタ類には触らないでください。表示画像に影響を与える恐れがあります。

 警告
<ul style="list-style-type: none"> ケーブルは、必ず付属品または当社が推奨するケーブルを使用してください。 当社の推奨ケーブル以外を使用した場合、電磁妨害波の増加、電磁妨害に対する耐性低下の恐れがあります。

信号ポート	最大ケーブル長	シールド	フェライトコア	推奨ケーブル
DisplayPort	2 m	シールドあり	フェライトコアあり	PP200
HDMI	2 m	シールドあり	フェライトコアあり	HH200HS
D-Sub 15ピン (ミニ)	1.8 m	シールドあり	フェライトコアあり	—
USB-B (アップストリーム)	2 m	シールドあり	フェライトコアあり	UU200SS
USB-A (ダウンストリーム)	2 m	シールドあり	フェライトコアなし	—
ステレオミニジャック	2.1 m	シールドあり	フェライトコアなし	—
ACインレット (またはAC入力)	2 m	シールドなし	フェライトコアなし	アース付き

技術的説明

電磁エミッション

DuraVision FDS1783Tは、次に規定する電磁環境内での使用を意図している。

顧客またはDuraVision FDS1783Tの使用者は、次の環境でDuraVision FDS1783Tが使用されていることを確認すること。


エミッション試験	適合性	電磁環境 - ガイダンス
RFエミッション CISPR11	グループ1	DuraVision FDS1783Tは、内部機能のためだけにRFエネルギーを使用している。 したがって、そのRFエミッションは非常に低く、近傍の電子機器に対して何らかの干渉を生じさせる可能性は少ない。
RFエミッション CISPR11	クラスB	DuraVision FDS1783Tは、住居環境および住居環境の建物に供給する公共の低電圧用の配電網に直接接続された建造物を含む、すべての施設での使用に適している。
高調波エミッション IEC61000-3-2	クラスD	
電圧変動/フリッカエ ミッション IEC61000-3-3	適合	

電磁イミュニティ

DuraVision FDS1783Tは、IEC60601-1-2で規定される専門的ヘルスケア施設環境での要求試験レベル (T) に対して、次の適合レベル (C) で試験されている。

顧客またはDuraVision FDS1783Tの使用者は、次の環境でDuraVision FDS1783Tが使用されていることを確認すること。

イミュニティ試験	試験レベル (T)	適合レベル (C)	電磁環境 - ガイダンス
静電気放電 (ESD) IEC61000-4-2	±8 kV 接触放電 ±15 kV 気中放電	±8 kV 接触放電 ±15 kV 気中放電	床は、木材、コンクリートまたはセラミックタイルであること。床が合成材料で覆われている場合、相対湿度は、少なくとも30%であること。
電氣的ファストトランジェント/バースト IEC61000-4-4	±2 kV 電源ライン ±1 kV 入出力ライン	±2 kV 電源ライン ±1 kV 入出力ライン	供給電源の品質は、標準的な商用または病院環境と同じであること。
サージ IEC61000-4-5	±1 kV ライン-ライン間 ±2 kV ライン-接地間	±1 kV ライン-ライン間 ±2 kV ライン-接地間	供給電源の品質は、標準的な商用または病院環境と同じであること。
交流電源における電圧ディップ、瞬時停電、および電圧変動 IEC61000-4-11	0% U_T (100% U_T のディップ) 0.5サイクル、1サイクル 70% U_T (30% U_T のディップ) 25サイクル / 50 Hz 0% U_T (100% U_T のディップ) 250サイクル / 50 Hz	0% U_T (100% U_T のディップ) 0.5サイクル、1サイクル 70% U_T (30% U_T のディップ) 25サイクル / 50 Hz 0% U_T (100% U_T のディップ) 250サイクル / 50 Hz	電源の品質は、標準的な商用または病院環境と同じであること。DuraVision FDS1783Tの使用者が、電源の停電中にも連続した稼働を要求する場合は、DuraVision FDS1783T への電力を無停電電源または電池から供給することを推奨する。
電力周波数磁界 IEC61000-4-8	30 A/m (50/60 Hz)	30 A/m	電力周波数磁界は、標準的な商用または病院環境における一般的な場所と同レベルの特性を持つこと。 電力周波数磁界の発生源とは少なくとも15 cm以上離して使用すること。

イミュニティ試験	試験レベル (T)	適合レベル (C)	電磁環境 - ガイダンス
RF電磁界による伝導妨害 IEC61000-4-6	3 Vrms 150 kHz～80 MHz 6 Vrms 150 kHz～80 MHz間のISM帯域 ^{※1}	3 Vrms 6 Vrms	携帯型および移動型RF通信機器は、ケーブルを含むDuraVision FDS1783Tのいかなる部分に対しても、送信機の周波数に該当する方程式から計算された推奨分離距離より近づけて使用しないこと。 推奨分離距離 $d = 1.2\sqrt{P}$ $d = 1.2\sqrt{P}$
放射RF電磁界 IEC61000-4-3	3 V/m 80 MHz～2.7 GHz	3 V/m	$d = 1.2\sqrt{P}$ 80 MHz～800 MHz $d = 2.3\sqrt{P}$ 800 MHz～2.7 GHz ここでPは、送信機製造業者によるワット (W) で表した送信機の最大定格出力電力であり、dはメートル (m) で表した推奨分離距離である。電磁界の現地調査 ^{※2} によって決定する固定RF送信機からの電界強度は、各周波数範囲 ^{※3} における適合レベルよりも低いこと。 次の記号が表示されている機器の近傍では、干渉が発生する可能性がある。 

参考

- U_T は、試験レベルを加える前の、交流電源電圧である。
- 80 MHzおよび800 MHzにおいては、高い周波数範囲を適用する。
- RF電磁界による伝導妨害や放射RF電磁界に関するこれらの指針は、すべての状況に対して適用するものではない。建築物、物、人からの吸収および反射は、電磁波の伝搬に影響する。

※1 150 kHz～80 MHz間のISM (工業用、科学用および医学用) 帯域は、6.765 MHz～6.795 MHz、13.553 MHz～13.567 MHz、26.957 MHz～27.283 MHz、および40.66 MHz～40.70 MHzである。

※2 例えば、(携帯/コードレス) 電話および陸上移動無線の基地局、アマチュア無線、AM/FMラジオ放送およびTV放送などの固定送信機からの電界強度を、正確に論理的に予測することはできない。固定RF送信機による電磁環境を見積もるためには、電磁界の現地調査を考慮すること。DuraVision FDS1783Tが使用される場所において測定した電界強度が、上記の適用されるRF適合性レベルを超える場合は、DuraVision FDS1783Tが正常に動作するかを検証するために監視すること。

と。異常動作が確認された場合は、DuraVision FDS1783Tの再配置または再設置のような追加対策が必要になることがある。

※3 周波数範囲150 kHz～80 MHzにわたって、電界強度は3 V/m未満であること。

携帯型および移動型RF通信機器との間の推奨分離距離と確認された各種通信機器サービス

DuraVision FDS1783Tは、放射RF妨害が管理されている電磁環境内での使用を意図している。顧客またはDuraVision FDS1783Tの使用者は、携帯形及び移動型RF通信機器（送信機）とDuraVision FDS1783Tとの間の最小距離（30 cm）を維持することで、電磁妨害を抑制することができる。以下のRF通信サービスにおける近接電磁界イミュニティの要求試験レベル（T）に対して、DuraVision FDS1783Tは次の適合レベル（C）で試験されている。

試験周波数 (MHz)	帯域 ^{※1} (MHz)	サービス ^{※1}	変調 ^{※2}	試験レベル (T) ^{※3} (V/m)	適合レベル (C) (V/m)
385	380～390	TETRA 400	パルス変調 ^{※2} 18 Hz	27	27
450	430～470	GMRS 460, FRS 460	FM ±5 kHz偏差 1 kHz正弦	28	28
710	704～787	LTE帯域13,17	パルス変調 ^{※2} 217 Hz	9	9
745					
780					
810	800～960	GSM800/900, TETRA 800, iDEN 820 CDMA 850, LTE帯域5	パルス変調 ^{※2} 18 Hz	28	28
870					
930					
1720	1700～1990	GSM 1800; CDMA 1900; GMS 1900; DECT; LTE帯域1,3,4,25; UMTS	パルス変調 ^{※2} 217 Hz	28	28
1845					
1970					
2450	2400～2570	ブルートゥース®, WLAN, 802.11 b/g/n, FIRD 2450, LTE帯域7	パルス変調 ^{※2} 217 Hz	28	28
5240	5100～5800	WLAN 802.11a/n	パルス変調 ^{※2} 217 Hz	9	9
5500					
5785					

※1 サービスによっては、アップリンク周波数のみ含まれる。

※2 搬送波は、50%デューティサイクル矩形波信号を用いて変調した。

※3 試験レベルは、最大電力、30 cmの分離距離により計算した。

顧客またはDuraVision FDS1783Tの使用者は、RF送信機とDuraVision FDS1783Tとの間の最小距離（15 cm）を維持することで、近接磁界による妨害を抑制することができる。以下の近接磁界イミュニティの要求試験レベル（T）に対して、DuraVision FDS1783Tは次の適合レベル（C）で試験されている。

試験周波数	変調	試験レベル（T） （A/m）	適合レベル（C） （A/m）
134.2 kHz	パルス変調 ^{※1} 2.1 kHz	65	65
13.56 MHz	パルス変調 ^{※1} 50 kHz	7.5	7.5

※1 搬送波は、50%デューティサイクル矩形波信号を用いて変調した。








その他の携帯型及び移動型RF通信機器（送信機）について、通信機器の最大出力に基づくDuraVision FDS1783Tとの間の最小距離は、次のとおりである。

送信機の最大定格出力 （W）	送信機の周波数に基づく分離距離 （m）		
	150 kHz～80 MHz $d = 1.2\sqrt{P}$	80 MHz～800 MHz $d = 1.2\sqrt{P}$	800 MHz～2.7 GHz $d = 2.3\sqrt{P}$
0.01	0.12	0.12	0.23
0.1	0.38	0.38	0.73
1	1.2	1.2	2.3
10	3.8	3.8	7.3
100	12	12	23

上記にリストされていない最大定格出力の送信機に関しては、送信機の周波数に対応する式を使用して推奨分離距離d（単位はメートル（m））を決定できる。ここで、Pは送信機製造業者による送信機の最大定格出力（単位はワット（W））である。

参考
<ul style="list-style-type: none"> 80 MHzおよび800 MHzにおいて、分離距離は高い周波数範囲を適用する。 RF電磁界による伝導妨害や放射RF電磁界に関するこれらの指針は、すべての状況に対して適用するものではない。建築物、物、人からの吸収および反射は、電磁波の伝搬に影響する。

製品に使われている記号について

	WEEEマーク
	段ボールのリサイクルマーク
	リサイクルマーク
	最大積段数（記号内の数値は製品によって異なります。）
	天地無用
	水濡れ注意
	われもの注意

アフターサービス

製品に関するお問い合わせ

製品の機能説明や操作方法に関するご相談を受け付けております。

お問い合わせの際は、事前に製品の取扱説明書やWebサイトのFAQ、互換性情報をご確認の上、下記Webサイトの問合せ窓口からご相談ください。

www.eizo.co.jp/support/product/inquiry/

点検／修理に関するお問い合わせ

製品の点検や修理に関するご相談を受け付けております。

点検／修理をご希望の際は、下記Webサイトの修理申込みフォームからご依頼ください。お申込みの混雑状況によっては、お時間をいただく場合がございますのでご了承ください。

www.eizo.co.jp/support/after/

製品回収、リサイクルシステムについて

パソコン及びパソコン用モニターは「資源有効利用促進法」の指定再資源化製品に指定されており、メーカーは自主回収及び再資源化に取り組むことが求められています。

当社製品は、一般社団法人「パソコン3R推進協会」が回収させていただきます。

回収を希望されるお客様は下記Webサイトからお申し込みください。

www.eizo.co.jp/support/recycle/

※ この製品は業務用途を意図した製品ですので、ご使用後廃棄される場合は有償となります。



EIZO株式会社
〒924-8566 石川県白山市下柏野町153番地

www.eizo.co.jp

Copyright © 2024 - 2025 EIZO Corporation. All rights reserved.

00N0N516BZ
UM-FDS1783T

2nd Edition – September, 2025